



スポーツ賞を受賞した橋崎智亜選手(左)とホープ賞の明智選手=13日午前、宇都宮市内、橋本裕太撮影

## KIZUNAスポーツ大賞

橋崎智亜、明智選手(スポーツ)

# 初の兄弟同時受賞

国内スポーツクライミング界をけん引する兄弟の笑顔が会場に並んだ。「第5回下野新聞KIZUNAスポーツ大賞」の表彰式が13日行われ、宇都宮市出身の橋崎智亜選手(21)＝県山岳連盟Ⅱがスポーツ賞、弟の明智選手(18)＝第一学院高Ⅱがホープ賞に輝き、同大賞初の兄弟同時受賞。2020年東京五輪でメダル獲得も期待される2人は「選ばれてびっくり。クライミングが認められたようでうれしい」と喜びを分かち合った。

スポーツクライミングは突起物(ホールド)が付いた人工壁で、登った成功回数や高さ、速さを競う。昨年、智亜選手はワールドカップ(W杯)複合で総合優勝を果たし、明智選手も世界ユース選手権ジュニア複合を制覇。兄弟で世界に「ナラサキ」の名を響かせた。

切磋琢磨するライバルだが、普段は「とも君」「明智」と呼び合い、自他ともに認める仲良し兄弟。練習も都内のジムでともにするが、アスリートとしては全く異なる色を放つ。

169センチの智亜選手は、強靱な肉体と高い身体能力を生かした大胆な登りを得意とし、性格は前向き。弟は「練習ではいい勝負ができるが、本番の強さがすごい」と尊敬の念を抱く。

一方、187センチの明智選手は長い手足を使って丁寧に登る。今春、高校を卒業し、兄の背中を追うように

「理想は一緒に東京五輪」

プロに転向。「指先の繊細な感覚の持ち主。才能もあり、こわい存在」と兄も一目置くクライマーだ。

2年後には東京五輪が控える。日本代表枠は激戦必至で、男子は1〜3枠とされる。2人は「一緒に出るのが理想。少なくともどちらかは出ないとね」。兄弟の物語はまだ始まったばかりだ。

(藤田賢)